

麻郷小学校 特別支援教育だより



R6.1.16

よりよいサポートのために！



ICT機器の上手な利用の仕方は、すべてのお子さんにとって、身に付けるべき必要なスキルです。長時間利用が体や心の発達に悪影響を与えるとされていますが、読み書き計算、調べ学習、コミュニケーションツールとしてのメリットは、学習や生活のつまづきをサポートするのに役立つものです。

ケース6 スマホ・タブレットに夢中

興味のあることに対して没頭しすぎてしまう傾向から、スマホやタブレットに熱中しすぎてしまい、手放せなかったり、取り上げられてかんしゃくを起こしたりして、親子関係も悪化しがちなケースです。

① 所有権は大人にあることをはっきりさせる。

お子さん用であっても、料金を払う持ち主は親であることで、使用制限にも納得できます。



② リスクを教え、対策する。

普段の会話で、個人情報の流出や課金などについて、具体的なリスクを伝え、自分を守るための方法を親子で考えたいですね。

③ ルールは本人と相談して決める。

何に利用したいのか本人の考えを聞き、ゲームの内容などを大人が把握することで守りやすいルール設定にすることが有効です。



④ ルールを守れなかった時はどうするかまで考えさせる。

ルールを破ったときに親の感情でペナルティーを与えるのではなく、事前に話し合っておきます。



⑤ ルールは書いて示す

夢中になると、決めた約束は忘れてしまいがちです。何度も言うよりも、いつも見える所に貼って、その都度確認させます。



⑥ 終了時間を確認しておく。

声をかけても切り上げることができないと、お互いにイライラ…。使用前に見通しをもたせ、何分か前には予告すると終了しやすくなります。ルールを守ったらほめるチャンスです。



* 次回は、【ケース7 意思表示が苦手】について考えます。